

平成二十五年新作名刀展の概要

表彰式・講評・受賞作品・受賞のことば

当協会主催「平成二十五年新作名刀展」は、作品の受付期間を四月一日(月)から三日(水)までとし、四月十二日(金)に協会四階講堂において部門別に審査が行われた。審査員は「作刀の部」十一名、「刀身彫の部」八名、「彫金の部」七名であった。出品総数は六十二点で、その内訳は

無鑑査が十四点(作刀の部十点、彫金の部四点)、無鑑査を除く出品数は四十八点(作刀の部二十六点、刀身彫の部四点、彫金の部十八点)である。厳正な審査の結果、全部門を通じて入賞者は二十四名で、特賞は、作刀(太刀・刀・脇指・薙刀・槍)の部で協会会長賞に松葉一路氏、彫金の部で協会

会長賞に山下秀文氏、羽川安穂氏が選ばれた。また、優秀賞は十名(作刀の部六名、刀身彫の部一名、彫金の部三名)、努力賞十一名(作刀の部六名、刀身彫の部三名、彫金の部二名)であった。入選者は二十四名(作刀の部十三名、彫金の部十一名)となっている。

この表彰式は五月二十八日(火)午後一時から当協会四階講堂で行われ、総務部長から経過報告があった後、小野会長より主催者挨拶、引き続き特賞以下の受賞者に対し賞状、賞金、副賞が授与された。今回は副賞として作刀の部に限り特賞受賞者に玉鋼二十キロ、優秀賞及び努力賞受賞者に同十キロが贈られた。

その後入選者への証書の授与があり、各部門別に河内國平(作刀の部)、柳村仙寿(刀身彫の部)、橋本晴夫(彫金の部)各氏の講評が行われた。最後に受賞者代表の答辞があり、表彰式は滞りなく終了した。

無鑑査及び入選以上の全作品は五月十四日(火)から六月十六日(日)まで刀剣博物館に展示された。

同展はその後、六月二十九日(土)から七月十八日(木)まで山形県の致道博物館にて、九月二十一日(土)から十月六日(日)まで埼玉県川越市立博物館にて巡回開催される。



新作名刀展展示会場



審査員



協会役職員